



第23回工業教育全国研究大会

墨付け・手刻みのできる建築大工技能者を育てる
日本建築科誕生

新潟県立新津工業高等学校 高橋俊司

はじめに

本校は平成21年度に学科改編して産業界の様々なニーズに応え、将来の匠を育成する工業マイスター科、生産工学科、ロボット工学科を設置し、新たなスタートをきる。

ものづくりの学校として地域はもとより県内でも知られ、「学ぼう匠の技と心」をコンセプトに高い技能を身に付け、地域を支える人材の育成を目指す。

新潟県教育委員会は、夢や希望をもって全国から生徒が集まってくるような学校づくりの取組として「魅力ある高校づくりプロジェクト」を推進する。

本校は平成24年度に指定を受け、「継ぎ手」や「仕口」で木材を組み、100年以上地震や風雪に耐える建物を建ててきた「伝統工法」を通して、機械の手を借りない手刻みの技を学び、これからの住宅建築を支える建築大工技能者を育てる日本建築科が誕生した。

沿革

- 昭和37年 設立公示
- 昭和38年 開校式、第1回入学式挙行
校章制定、機械科4学級、電気科3学級
- 昭和40年 校歌制定、開校記念式挙行、校旗制定
電子工学科2学級新設
- 昭和42年 電子工学科を電子科と改称
- 平成 4年 機械科を2学級に縮小
機械システム科2学級を新設
- 平成 8年 電子科1学級に縮小
- 平成 9年 機械科1学級減

沿革

- 平成10年 電気科1学級減
- 平成13年 機械システム科1学級減
- 平成15年 電子科募集停止
- 平成17年 電気科募集停止
- 平成21年 機械科、機械システム科を募集停止し、工業マイスター科1学級と生産工学科2学級を新設
- 平成23年 ロボット工学科1学級を新設
- 平成24年 県教育委員会「魅力ある高校づくりプロジェクト」の一環として日本建築科1学級を新設

教育目標

1. 豊かな人間性の育成
2. 工業技術者としての知識・技能・態度の養成
3. 健康の増進と体力の向上

実践上の努力点

1. 和を学ぶこと
2. 努力を惜しまぬこと
3. 責任を重んずること
4. 規律正しい生活をする事

コンセプト

学ぼう「匠」の技と心！

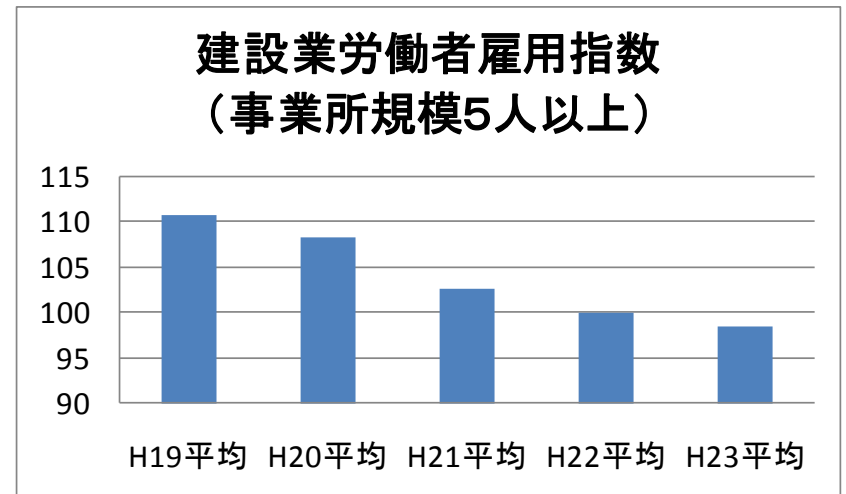
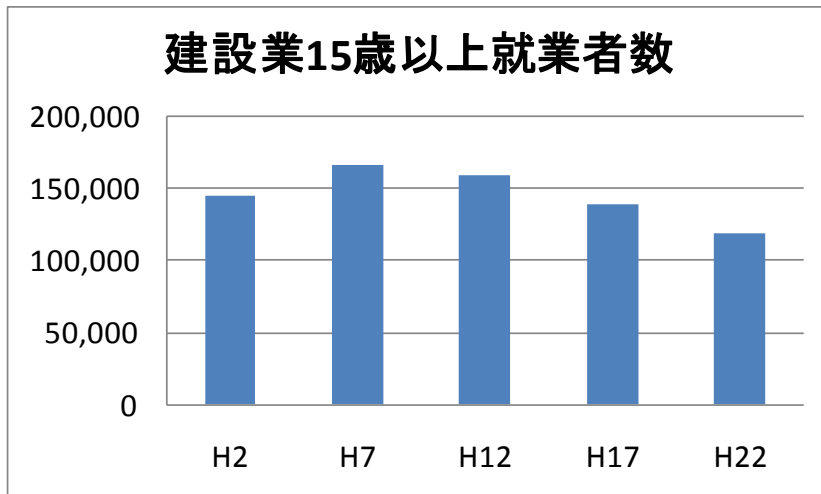
高度な技能・技術を身につけた

地域を支える人材の育成

1. 高度で実践的な技能や伝統的な技能を学び、地域を支える人材を育成する学校になります。
2. 優れた技能を学ぶ体験を活かして、小・中学生に技能を身につけることの素晴らしさや大切さを伝える活動を行います。

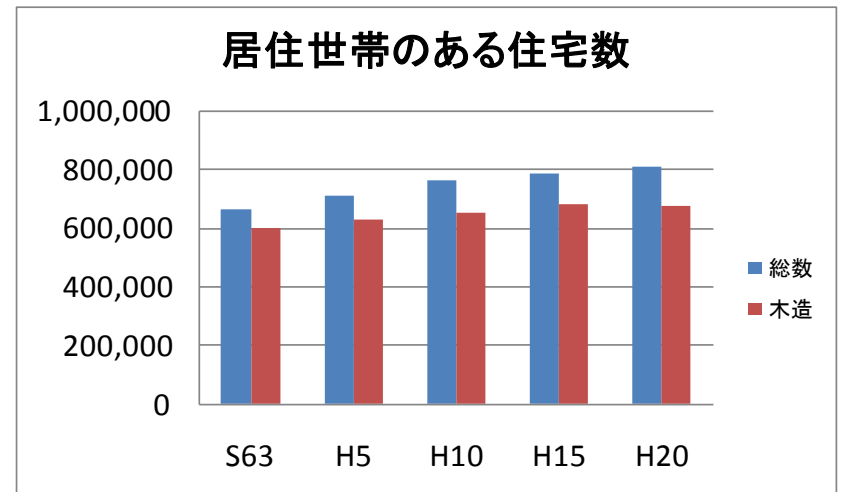
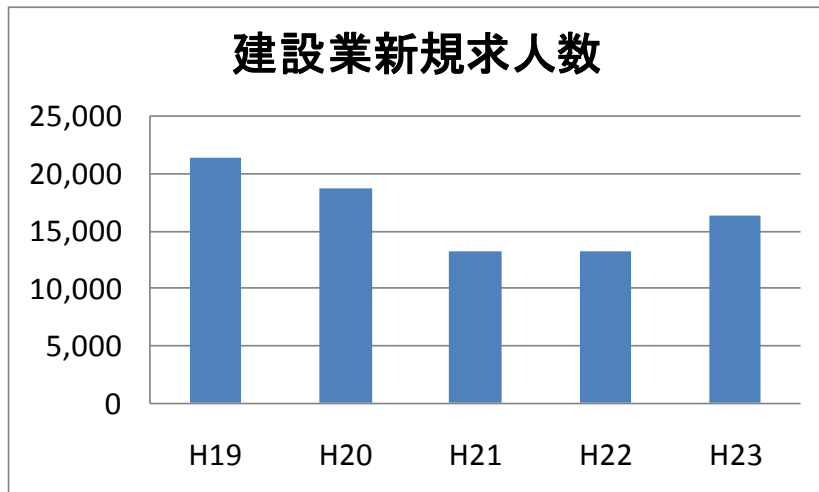
新潟県の建設業

新潟県統計年鑑によると建設業就業者数及び建設業労働者雇用指数(事業所規模5人以上)は減少傾向にある。



新潟県の建設業

新潟県統計年鑑によると建設業新規求人数及び居住世帯のある住宅数は傾向にあることから、今後、建設業の人材の需要が見込まれると考える。



日本建築科

県教育委員会「魅力ある高校づくりプロジェクト」の一環

① 豊富な実習時間

工業技術基礎(1年)、実習(2・3年)を週に6時間実施し1日通しで行う。

② 外部講師による指導

実習指導は、教諭＋実習教諭＋外部の熟練指導者が直接指導する。

③ 資格の取得

1・2年で3級技能検定、卒業までに2級技能検定(建築大工)を全員が取得する。

※ 初年度取得率93%

教育課程

- 教科30＋LHR1＋総合学習1
(課題研究で代替)
- 1単位時間52分、水曜日7限授業
- 基礎・基本をしっかりと(普通教科)
- 特色ある学習内容で、実践的な技能・技術をじっくりと(専門教科)
(豊富な実習や学校設定科目)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1学年	国語総合			現代社会		数学Ⅰ			科学と人間社会		体育			保健	芸術	コミュニケーション英語基礎	工業技術基礎							製図	情報技術基礎	建築構造	LHR				
2学年	国語総合		地理A		数学Ⅱ			化学基礎		体育	保健	家庭総合		コミュニケーション英語Ⅰ	実習					製図	建築構造	建築構造設計	*規矩術	LHR							
3学年	国語表現			世界史A		数学Ⅱ		物理基礎		体育	家庭総合		コミュニケーション英語Ⅰ	実習					課題研究		建築施工	建築法規	*住宅計画	LHR							

* 規矩術、住宅計画は学校設定科目

外部講師による指導

手刻みによる大工技術の指導



山崎建築
(日本伝統建築保存会技能者)



諸橋建築
(「新潟の名工」認定者)

授業風景(実習)



のみ研ぎやかんなの整備をはじめとする各種大工道具の扱い方と手入れ方法を習得します。

平成24年度新潟県高校生ものづくりコンテスト (木工加工部門)

1年生ながら優勝、北信越大会出場

平成25年度「若年者ものづくり競技大会」出場



平成24年度新潟県高校生ものづくりコンテスト (木工加工部門)

1年生ながら優勝、北信越大会出場

平成25年度「若年者ものづくり競技大会」出場



取得資格

在学中

3級・2級技能検定(建築大工)

建築施工管理技術検定(2級学科)

建築CAD検定3級

卒業後(実務経験3年間)

木造建築士

2級建築士

2級施工管理技士



目指す大工像

- 気の温もりを感じ取り、木の美しさを理解し、
建物に生かせる人
- 建物の建てる場所の気候や風土を理解し、
自然と調和できる建物を建てられる人
- 先人の技を学び、自分のものにして後世に
伝えられる人
- 住む人と一緒になって、永く住み続けられる
建物をたてる人

おわりに

我々日本人の身近にある神社仏閣が、先人たちの卓越した技能で建築され、脈々と現在までその技能が伝承されており、それを誇りに思い、これからその伝統を受け継ぐ次世代の育成が大切だと考える。

少しでも心と技を引き継ぎ、お役に立てればと思っています。